

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 5 月 15 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/15 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系: 約 1.9 m <sup>3</sup> /h	23.2	107.0 kPa abs	A系: 0.08 vol%
		給水系: 約 2.4 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.08 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系: 約 3.7 m <sup>3</sup> /h	36.2	5.42 kPa g	A系: 0.06 vol%
		給水系: 約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系: 約 3.5 m <sup>3</sup> /h	34.7	0.27 kPa g	A系: 0.14 Vol%
		給水系: 約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.13 vol%

\*: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/15 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	18.5
2号機	循環冷却システム	運転中	19.5
3号機	循環冷却システム	運転中	17.3
4号機	循環冷却システム	停止中	26

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドراجンの注入を適宜実施。

[4号機] 5/15 10:00 ~ 15:10、使用済燃料プール代替冷却系の電源(一次系)の二重化工事を行うため、当該冷却系を停止。なお、運転再開後の当該冷却系運転状態については、異常ない。  
また、使用済燃料プール水温度は、冷却停止時の 26 から 27 まで上昇したが、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題なかった。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋地下	5/7 9:50 ~ 5/13 9:24 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	4/24 17:08 ~ 5/13 9:47 移送実施

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系\*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

\*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

#### < 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/15 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56～ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A～C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

5/12 9:59 ソフトウェアの変更並びに一部機械部品の交換を行うため、多核種除去設備(ALPS)を停止。

5/15 15:32 作業が終了したことから、同設備を起動し、ホット試験を再開。

#### < 5 . その他 >

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5,6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8～ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

・H25/5/9 9:44～ 6号機補機冷却系熱交換器(A)出入口弁点検に伴い、使用済燃料プール冷却系を停止(停止時プール水温度:15.8 )し、残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転(原子炉側の冷却)と非常時熱負荷運転(使用済燃料プール側の冷却)を交互に切り替えて冷却する運用を開始。

・H25/5/14～ 2号機サプレッションチェンバ内へ窒素ガスを5Nm<sup>3</sup>/hで封入実施。本作業は、5/17までの各日日中6時間程度を予定。

なお、サプレッションチェンバ内圧力がドライウェル圧力に対して低く、窒素ガス封入量5Nm<sup>3</sup>/hでは少ない状況であることから、明日以降(5/16、17)の窒素ガス封入量は10Nm<sup>3</sup>/hに変更。

#### 【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

##### < 拡散防止対策 >

5/15 地下貯水槽 No.1、2の漏えい検知孔内に漏えいした水および地下貯水槽 No.2のドレン孔に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。

地下貯水槽 No.3の漏えい検知孔内に漏えいした水を当該貯水槽へ戻す処置を実施。

##### < サンプルング実績 >

5/14 地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14箇所)、地下貯水槽 No.1～4,6の漏えい検知孔水(10箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22箇所)、地下水バイパス(調査孔a～c・揚水井1～4、調査孔は3箇所のうち1箇所は試料採取不可)および海側観測孔 ～ について、サンプルングを実施。

分析の結果、地下貯水槽 No.3の漏えい検知孔水(南西側)の全ベータ値が、前回(5/13)と比較して5倍となっているが、この値は過去の測定結果の範囲内であり、その外側のドレン孔(南西側)での濃度上昇はない。その他の箇所については、前回の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。

また、5/6、7に採取した、地下水バイパス(調査孔a～c・揚水井1～4、調査孔は3箇所のうち1箇所は試料採取不可)および海側観測孔 ～ の水について、トリチウムの分析を実施。

今回から、より検知精度を向上させるため、分析方法を変更し、検出限界値を下げて分析しており、今回11箇所トリチウムを検出。

そのうち、9箇所については、前回(4/29～5/1)の検出限界値(約 $2\sim 3 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ )を下回る値で検出されているが、この値は過去の分析結果と同等の値であり、新たな濃度上昇ではないと考えている。その他2箇所については、前回と比較して大きな変動はない。

従って、トリチウムの分析結果についても、前回(4/29～5/1)の分析結果と比較して、大きな変動はないと考えている。

以上